

平和記念だより

平成24年度

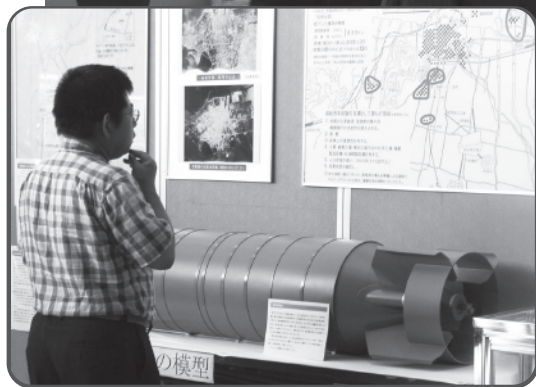
高松市戦争遺品展



◆編集・発行:高松市役所 人権啓発課 平和記念係

◆連絡先:高松市番町一丁目8番15号

TEL:087-839-2293 FAX:087-839-2291



▲ 集束焼夷弾の実物大レプリカ



▲ 日によっては、語り部さんから説明や体験談を聞けることも。

7月30日(月)～8月3日(金)にかけて、高松市役所1階市民ホールにおいて、第22回高松市戦争遺品展を開催しました。

今年は、高松空襲の被害状況や空襲被災写真のほかに、戦時下の暮らしや学校生活の様子を写したパネルや体験談、当時の衣類、物資不足の折の代替品等、計100点余りを展示しました。

今回は、写真週報や軍服・国民服等に実際触れられるコーナーもあり、集束焼夷弾の実物大レプリカ等、時間をかけてじっくり見入っている来場者が多く見られました。

また同会場にて、日本ユニセフ協会にご協力いただき『忘れられた子どもたち～アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使のスーダン・ダルフル視察記録～』と題したパネル展も同時開催しました。

連日幅広い年代の方にご来場いただきました。ありがとうございました。

高松市戦争遺品展・来場者の感想

◇ 当時の写真を見て戦争中の生活がたいへんだと思った。平和であることの大切さを知った。
(中学生・男子)

◇ 焼夷弾(集束)の大きさは、思ったよりも大きかった。戦争をなくすためには、戦争を知らなければ、いけない。

(中学生・男子)

◇ 写真を見て改めて戦争はいけないことだなあと思いました。小学校5・6年生の人々に畑ごとなど重労働をさせてひどいなあと思いました。
(中学生・男子)

◇ 戦争は2度としたくない。

死んだり傷ついたりする人は国民ばかり。戦争をはじめなければたまらなかった人は全員死んだだろうか。不自由な目にもあったらどうか。これ位バカらしいものはない。あの当時の子どもは普通の勉強もできなかった。
(60歳以上・女性)

◇ 戦中・戦後を生きて来た人間として、食糧・電気・ガス・水道等文明の恩恵を受けている現在、それが当たり前と思っている人達が何にでも不平・不満を云っている様に思えてならない。国が負けると家が焼かれて食糧がなくても、何の補償もなく何とか生きて来た。

原発をなくす事も、代替のエネルギーの確保も大変だし、今すぐやめろと云っても無理な話だと思う。デモ等でワアワアとなっている人達は、それならば電気は使わず七輪パタパタで煮炊きをし、水はつるべやばけつで運び食糧も自分で種まきして自給自足をする覚悟でやってみると良い。

反対・反対という人は、資源のない国で世界の中でどのようにすれば平穩に生きていけるか代替案を出すべきだ。
(60歳以上・女性)



◆『高松戦災・原爆写真展』(主催：高松市平和を願う市民団体協議会)

8月6日(月)～8月10日(金) 高松市役所1階市民ホール



『高松市戦争遺品展』の翌週には、同会場にて今年も『高松戦災・原爆写真展』が開催されました。

今回は、高松市が平成21年12月に加盟した平和市長会議において、加盟都市が5,000都市を突破したことを記念して全加盟都市に呼びかけ、行われた「平和市長会議原爆ポスター展」も同時開催しました。

今後の行事予定

平和記念係収蔵品巡回展

【日 時】 10月27日(土) 10:00～16:00
28日(日) 9:00～15:00

【場 所】 前田小学校体育館

【内 容】 高松空襲に関する写真パネルや前田地区の方から寄贈いただいた収蔵品等の展示

教職員のための平和教育講演会

【日 時】 12月

【場 所】 未 定

【内 容】 高松空襲、原爆について学習する一例を紹介



高松市平和記念館(仮称)の整備について



平和記念室を設置していました高松市市民文化センターは、老朽化等に伴い、平成24年3月に廃止され、新たに子どものための施設として「高松市こども未来館(仮称)」を整備することとなり「高松市平和記念館(仮称)」「高松市男女共同参画センター」と一体的に整備することとなりました。

○基本計画

平和記念館の整備に当たり、整備に当たって必要な事項や検討すべき事項を明らかにし、本年7月に基本計画を策定しました。概要は次のとおりです。

◆施設構成

こども未来館は6階建てで、平和記念館は、学校等の団体利用の利便性の確保から、科学体験館と隣接して5階に整備されます。

◆基本的な考え方

平和記念室の基本理念を継承し、小中学校の学校団体による平和学習の機能を充実させていくとともに、さらに幅広い市民の利用を促進していきます。

◆施設の構成

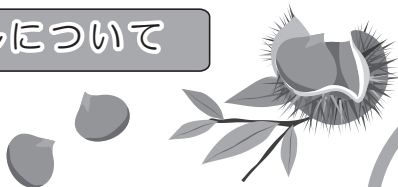
平和記念室の展示構成を踏襲しますが、新たに下記のコーナーを設けます。

- ・レクチャー・ガイダンス……………学校の団体利用でクラス単位でビデオ鑑賞やガイダンスを映像学習室で行います。
- ・平和への取組み・核兵器の廃絶……平和への施策や核兵器の廃絶・非核平和に向けた世界の様々な取組みを紹介します。
- ・企画展示……………収集資料や調査研究の成果を様々な切り口から紹介します。

○今後のスケジュール

建築基本・実施設計、展示設計を平成25年9月末までに策定し、その後、27年度末から28年度当初よりの供用を目指し、建築工事、展示製作を行います。展示設計に当たっては、関係団体等市民との懇談会などを通して市民の声を展示に反映していくようになります。

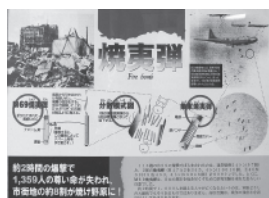
平和記念室の資料貸し出しについて



平和記念室では、パネルや実物資料など収蔵資料の貸し出しを行っています。昨年度は、個人・団体合わせて計28件、160点余りの貸し出しがありました。

市民文化センターの閉館に伴い、今年度より常設展示が無くなり、収蔵品の保管場所も他所へ移動しております。そのため貸出に関してもご不便をおかけしますが、貸出セットを常備する等で対応して参りますので、貸出期間・貸し出し物品など、詳しくは人権啓発課・平和記念係までお問い合わせください。

当時の様子を伝える貴重な資料ですので、地域や学校で戦争に関する展示を行う際の展示物として、また、語り部の方のお話を聞く時の資料として、ぜひご活用いただければと思います。





戦時用語解説 ④1

月月火水木金金

日曜土曜のない1週間ということである。

土曜、日曜のない猛訓練は海軍の伝統であった。日露戦争の時、連合艦隊司令長官東郷平八郎は、バルチック艦隊の極東来航に備えて国運を賭けた猛訓練を実施している。後年、「訓練に制限なし」の東郷の金言を生んだが、それは1922(大正11)年2月6日のワシントン会議の軍縮条約締結によって、米、英、日の主力艦保有量比率が5・5・3という劣勢を技術力によってカバーしようとしたのであった。続く1930(昭和5)年4月22日のロンドン海軍軍縮条約調印により、補助艦についても対米比が、69.75%となり、海軍の猛訓練が続けられた。(「たとえ軍備に制限があっても、訓練に制限はない」と、「月月火水木金金」の猛訓練が繰り返されていた。) 月月火水木金金という言葉はこういう状況のもとに生まれたのであるが、日米開戦必至の中、1940(昭和15)年頃、津留雄三海軍大佐が言い始めたという説もある。

この言葉を題名にした歌「月月火水木金金」(高橋俊策作詞:江口夜詩作曲)は、昭和15年11月発売。歌はヒットして、老若男女を問わず歌った。その底には日本人になじみ易い勤労礼賛の傾向が潜んでいたと思われる<休日返上>を美德とする気風がある。

戦争が熾烈になるにつれ、こうした休日返上は軍隊ばかりでなく、軍需工場は勿論のこと、広く官公庁、一般へも広まっていった。

朝だ夜明けだ 潮の息吹き
ぐんと吸い込む銅色の
胸に若さの漲る 誇り
海の男の艦隊勤務
月月火水木金金

▲ 歌詞抜粋



収蔵品紹介40 【従軍記章】

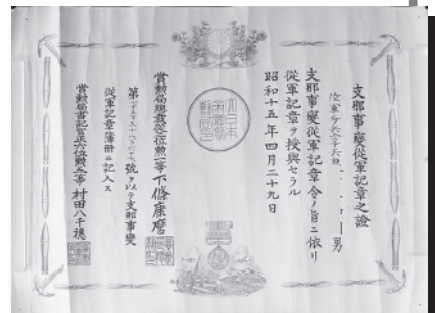
従軍記章は、1875(明治8)年4月10日従軍牌として定められたものだが、1876(明治9)年11月15日、従軍記章と改称された。従軍記章は将兵の区別なく、軍功の有無にかかわらず、従軍あるいは軍役、事変に関係した軍人、軍属(通訳・日赤看護婦、徴用された御用船の船員など)をはじめ、文官(占領地の司政官・警察官など)、民間(一般の会社員や商人などは対象外)にも賜るもので、勲章と同様に佩用することを許された。従軍記章を授与される資格該当者は、次に掲げるものであった。

- ①戦地、事変地にあつて軍務に従事し、または軍事に関する特別の任務をうけて戦地、事変地に往復した陸海軍軍人軍属及び文官。
 - ②戦地、事変地に臨まなくても動員部隊もしくは戦役、事変のため臨時編成した部隊に編入せられ、または戦役、事変に関する軍務に従事した陸海軍軍人軍属。
 - ③戦役、事変に関する軍務に従事した陸海軍官用船舶または病院船の乗組員。
 - ④陸海軍官憲の監督をうけ、戦役、事変に関する傷病者の救護に従事した者。
- 資格のある者が死亡した場合には遺族に交付された。戦功もたてずに勲章もなく、遺骨も戻らない戦死者にとっては、国からの唯一の遺品となる。敗戦国にとっては悲しい敗戦の記念品ともなる。

従軍記章が制定されたのは、次の9種類である。

- 明治7年従軍記章 ○明治27・8年従軍記章 ○明治33年従軍記章
- 明治37・8年従軍記章 ○大正3・4年従軍記章
- 大正3年乃至9年戦役従軍記章 ○昭和6年乃至9年事変従軍記章
- 支那事変従軍記章 ○大東亜戦争従軍記章…(この記章は制定されはしたが一人として交付された者はなく、幻の従軍記章といわれた。大阪の造幣局で製造の途中で敗戦を迎え、占領軍に^{いつぶ}鋳潰されて幻の従軍記章となった。)

歴戦の将兵でもその在籍は30年ほどだから、日本軍人で多くの従軍記章を胸に飾っても日清戦争から第一次世界大戦まで、あるいはシベリア出兵から支那事変までの数個であろう。戦後、わが国には戦争は起こらず、この従軍記章がないのは国民にとって幸福なことである。



▲ 従軍を証明する記章とそれを証明する「証拠」が全員に授与された



編集メモ

今回は、毎年恒例の戦争遺品展、高松戦災・原爆写真展の様子のほか、平和記念館の基本構想や資料貸し出しについてお知らせしました。平和記念室ではパネル等の資料貸し出しも行っておりますので、平和について改めて考えるきっかけ作りに是非お役立て下さい。



▼ホームページアドレス (平和啓蒙の推進事業がご覧いただけます)

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/18976.html>